

平成 30 年度

樹木調査報告書

平成 31 年 4 月

広島県緑化センター

1. 年度計画

今年度の調査範囲

- ・主園路 . . . 麻下川沿い
- ・登山道 . . . 三本木山登山道
- ・遊歩道 . . . 路線番号南 R-1、R-3、R-5（一部）

2. 第4四半期の調査結果

平成31年1月～3月に実施した調査結果を以下に示す。

1) 調査場所と本数

場所	調査本数	内訳 樹種別本数							
		スギ	マツ	サクラ	モミジ	ケヤキ	クスノキ	広葉樹	針葉樹
①三本木山登山道									
②遊歩道 南 R-1～3									
③遊歩道 南 R-5									
合計									

2) 判定結果

①三本木山登山道

判定 区分	枝		主幹		うち緊急性◎			
					枝		主幹	
判定 1		2.0%		6.4%	6	1.5%	20	4.9%
判定 2		14.7%		21.5%				
判定 3		83.2%		72.1%				
判定 4		0%		0%				
合計					6	1.5%	20	4.9%

②遊歩道 南 R-1～3

判定 区分	枝		主幹		うち緊急性◎			
					枝		主幹	
判定 1		1.3%		6.3%	6	0.2%	75	2.1%
判定 2		26.4%		16.4%				
判定 3		72.3%		77.2%				
判定 4		0%		0%				
合計					6	0.2%	75	2.1%

③遊歩道 南 R-5（一部）

判定 区分	枝		主幹		うち緊急性◎			
					枝		主幹	
判定 1		0.3%		2.1%	0		0	
判定 2		9.7%		7.7%				
判定 3		90.0%		90.2%				
判定 4		0%		0%				
合計					0		0	

判定 1 通常時での倒木・枝落下の恐れがある（伐採又は支柱等の検討措置）

判定 2 今すぐ倒木が発生する危険性は少ないが、今後の注意を要する（要観察）

判定 3 直ちに倒木の発生につながる異常は認められない

判定 4 簡易調査では、倒木の発生の恐れが判定し難いもの

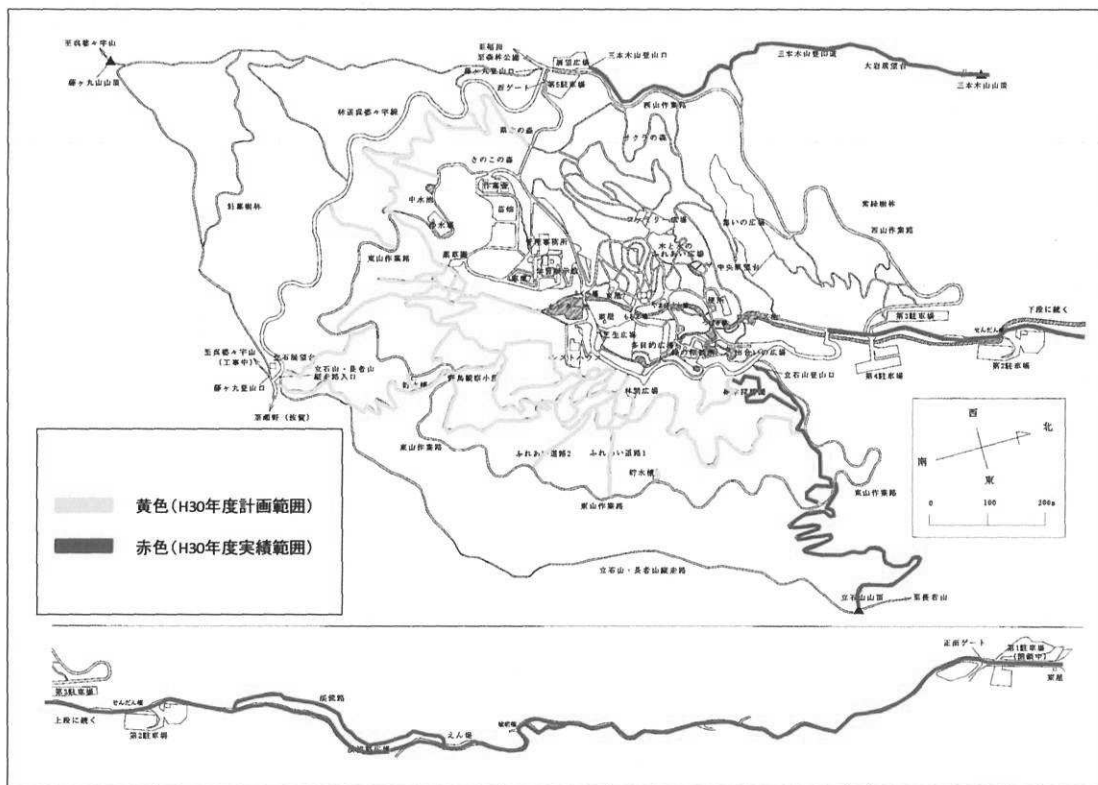
（更なる詳細調査が必要であるため県と要相談）

緊急性◎とは、要即対応のものを示す。

3. 今年度の調査予定範囲と実績範囲

下図に今年度の調査計画範囲を黄色で、実績範囲を赤色で示す。

麻下川沿いについては昨年度既に調査していたが、平成 30 年 7 月豪雨災害に伴い、緊急的に危険木の調査を行うこととした。



4. 要対応木と処置状況

平成 30 年度 4/4 半期において、調査の結果対応が必要とされた樹木の本数と、平成 31 年 3 月末時点での処置状況を示す。なお、麻下川沿いの危険木については、緊急性が高い 34 本については 9 月の部分開園前までにすべて伐採を完了した。それ以外の危険木については、危険木伐倒整理業務で伐採完了した。

1) 要剪定樹木と処置結果

調査の結果、剪定が必要と判断された樹木の本数と、年度末現在の処置状況を示す。

範囲	調査本数	要剪定本数	処置本数	処置率
三本木山登山道		8	8 ^{*)}	100%
遊歩道 南 R-1～3		26	0	0%
遊歩道 南 R-5 (一部)		2	0	0%
合計		36	8	22%

^{*)} 伐採したものを含む

2) 要伐採樹木と処置結果

調査の結果、伐採が必要と判断された樹木の本数と、年度末現在の処置状況を示す。

範囲	調査本数	要伐採本数	処置本数	処置率
三本木山登山道		27	27	100%
遊歩道 南 R-1～3		225	161	72%
遊歩道 南 R-5 (一部)		12	0	0%
合計		264	188	71%

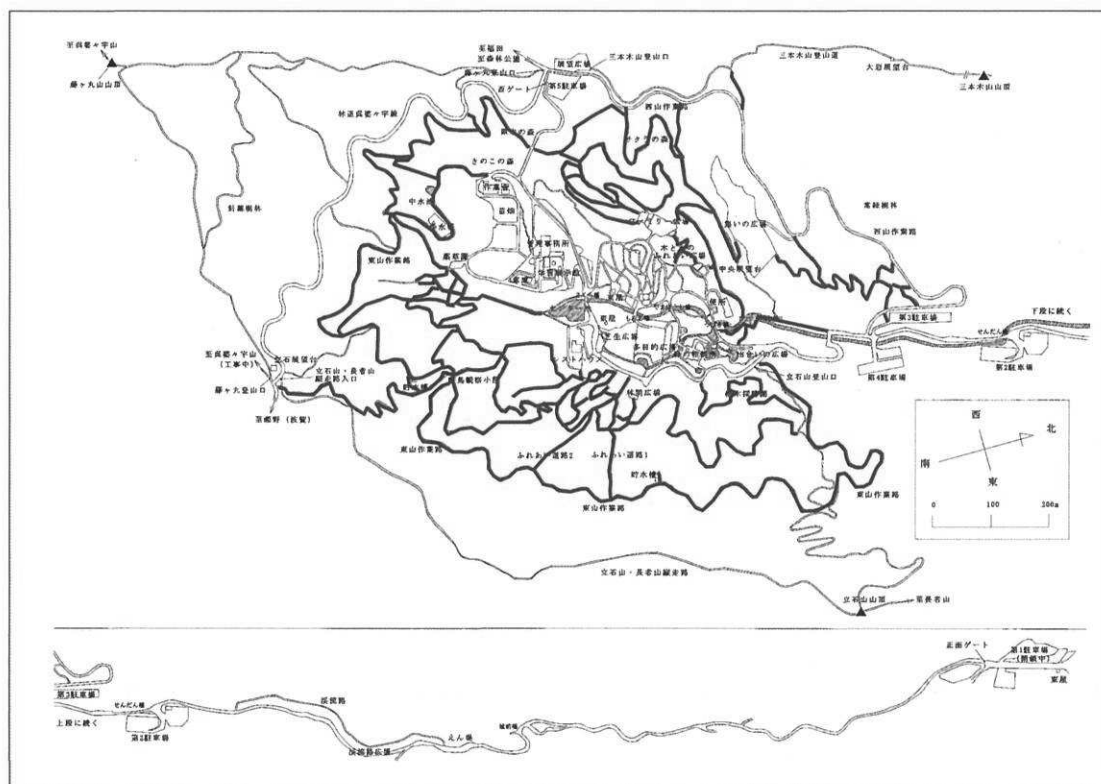
3) 計画伐採樹木と処置結果

調査の結果、計画伐採（将来的に伐採が適当）と判断された樹木の本数と、年度末現在の処置状況を示す。

範囲	調査本数	計画伐採本数	伐採済本数
三本木山登山道		37	0
遊歩道 南 R-1～3		36	0
遊歩道 南 R-5（一部）		3	0
合計		76	0

5. 次年度の計画

次年度の計画範囲を青色で示す。



添付資料

- ・ 調査範囲図
- ・ 調査日報
- ・ 業務写真集